

大学生の小学生時における保健室の利用と保健室の印象

University Student Usage and Perceptions of the Elementary School Nurse's Office

次世代教育学部こども発達学科
中道 美鶴
NAKAMICHI, Mitsuru
Department of Child Development
Faculty of Education for Future Generations

安田女子大学
教育学部児童教育学科
新沼 正子
NINUMA, Masako
Yasuda Women's University
Department of Education Child Educational Department

びわこ学院大学
教育福祉学部子ども学科
平松 恵子
HIRAMATSU, Keiko
Biwako-Gakuin University
Educational Welfare Science Department Child Department

キーワード：大学生，小学生時，保健室のイメージ

Keywords : university student, elementary school student days, perceptions regarding nurse's office

要旨：子どもの発達段階によって保健室への来室理由が異なっており，発達段階に応じて，保健室の機能に対するニーズが変化していた。また，校種が上がるにつれて「自己実現」へと向かっており，保健室は子どもの発達支援の場となっていることが明らかにされた。

大学生が，これまで経験した保健室の実態を踏まえて，心身両面の養護教諭への相談内容と養護教諭の人間性と同時に，治療・手当等の技術的な対応を含めた健康管理のあり方に対する具体的な項目が示された。

今後の保健室の方向性については，児童生徒の健康上の課題を解決する場として位置づけるものであり，子どもの，発達段階に応じて，保健室の機能に対するニーズが変化することから，現今の学生の児童・生徒の頃の保健室のイメージとしての「病気，ケガの処置」「身体検査」等の共通したものに加えて，保健室は子どもの発達支援と保健教育の場としての機能が求められる。

Abstract : This study showed that the reasons children visited the nurse's office at school differed depending on their developmental stage and so the services that they needed the office to provide changed accordingly. Further, as they advanced to middle and high school and began to "self-actualize," the nurse's office became a place to go to for developmental support.

Based on their past experiences with nurse's offices, university students provided specifics of the health management functions that the school nurse should provide, including skilled medical treatment, first-aid, mental and physical health advice they sought from nurses, and nurses' approachability.

In the future, as the place where school students go for solutions to their health problems, the services provided by the office needs to change as per changes in children's needs according to their stage of development. Based on the common perceptions of today's university students that the nurse's office in their early school days was "the place that took care of you when you were sick or injured," or "the place where you underwent physical examinations," the nurse's office needs to function as the place students go to for developmental support and health education.

I. はじめに

子どもの健康は、心身両面に関わるものであり、保健室での養護教諭の対応は、子どもの将来の健康保持増進にまでも影響を及ぼす教育的効果がある。養護教諭は、保健室の環境を整えるとともに受容・共感的態度により、子どもたちの不安や悩みを軽減できるようにするという役割があるが、その一方で、教育職である養護教諭と養護活動の場である保健室に利用者が何を期待しているのか、また養護教諭の「養護」が子どもにどのような影響を与えているのかを把握していない。そこで小学生時の養護教諭との関わりを検討し、今後の保健室・養護教諭のあり方を知る手掛かりを得ようとした。

本調査は大学生が小学生時にどのように養護教諭と関わり、保健室を利用したかについて調査することで、保健室の役割を明らかにし、子どもたちが健康的に日常生活を送るためのより良い方策を見いだすことを目的に行う。また現在の大学生が保健室のあり方を考えることは、将来の保健室の姿を構築する手掛かりとなる。

II. 方法

2015年5月から7月にかけて大学生526名（男子275名、女子251名）を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は、「小学生時の保健室の利用頻度と保健室のイメージ」「養護教諭への相談内容」「養護教諭が行った対応」とした（表1）。回収率は84.4%で526名の有効回答を対象とした。

倫理的配慮として、学生に調査の目的と方法を説明し、調査への参加は自由意思であること、拒否による不利益が生じないこと等を口頭及び書面で説明し了解を得て実施した。

III. 結果と考察

保健室のイメージは、「病気やケガをした時に行く所：93.2%」,「身長・体重・視力等を測る所：69.4%」,「物をもらえる所：46.6%」,「友達の付き添いやお見舞いに行く所：37.6%」,「休憩する所：27.7%」,「悩みを相談する所：26.3%」であった（表3）。

保健室の利用頻度「健康診断や身体計測の機会を除き、保健室はどの程度利用していましたか」について、「ほぼなし：37.5%」,「2～3回程度：37.6%」,

表1. アンケート項目

《①保健室の利用頻度》		《③養護教諭に求めるもの》	
1	ほとんど利用しなかった	1	やさしい
2	年に2～3回程度利用した	2	話しやすい
3	年に10回程度利用した	3	包容力がある
4	それ以上利用した	4	手当てが上手
5	わからない	5	知識が豊富
		6	相談しやすい
		7	頼りがいがある
		8	明るい
		9	指導力がある
		10	常識がある
		11	体力がある
		12	公平な態度である
		13	話を聴いてくれる
		14	とっさの判断ができる
		15	迅速な対応ができる
		16	いつも保健室にいる
		17	教室での様子を見ている
		18	スキンシップがある
		19	何も求めない
《②保健室のイメージ》		《④養護教諭への相談内容》	
1	病気やケガをした時に行く所	1	恋愛
2	身長・体重・視力等を測る所	2	家族
3	身体や性について知ることができる所	3	友人関係
4	友達の付き添いやお見舞いに行く所	4	勉強
5	悩みを相談する所	5	進路
6	養護教諭に会いに行く所	6	部活動
7	先生に呼ばれていく所	7	病気
8	委員会活動で使う所	8	ケガ
9	資料や本を見る所	9	健康状態
10	休憩をする所	10	性について
11	物をもらえる所(絆創膏、薬、ナプキン等)	11	タバコ
12	なんとなく行く所	12	アルコール
13	教室の代わりに行く所	13	薬物
14	入りにくい所	14	いじめ
		15	虐待
		16	先生について
		17	ダイエット
		18	食事
		19	生理について
		20	病院について
		21	お金
		22	アルバイト
		23	習い事
		24	家庭内暴力
		25	校内暴力
		26	リストカット
		27	睡眠
		28	漠然とした悩み

「10回程度：13.1%」,「それ以上：11.0%」であった(表2)。

また、養護教諭に求められることは、「話しやすさ」「やさしさ」等であった(表4)。

保健室のイメージとして最も強いのは「病気やケガをした時に行く所」であり、学校内での体調管理とケガの治療が目的だった。その一方で身長・体重等健康診断により、自己の体について知ることも目的の一つだといえる。これにより健康の自己管理のための動づけと意識を高めることになるであろう。養護教諭への相談内容としては、「ケガ」13.2%、「友人関係」9.6%、「病気」9.6%であり、ケガや病気人間関係など様々であった(表5)。また、子どもたちが養護教諭との関わりの中で心身を休め、日頃の悩みや日常生活時の相談により、不安やストレスを軽減させる場でもあり、養護教諭への相談により「スッキリした」「解決できた」など自由記述があり、保健室における養護教諭の対応は、子どもたちの「集団として」「個人として」の両面からの検討が必要になる。そして心身の健康相談活動により自己決定や、自身の解決を可能にする支援となることが期待される。つまり、保健室は、子どもの生活実態を把握し、健康的な日常生活を送ることができるように支援していく場となっていたことになる。

また、小学校における養護教諭像に加え、生徒・学生へと移行するにつれて養護教諭像が変化し、将来より多くの子どもたちのニーズに応えられるよう、技術面、人間性の構築が求められる。

IV. まとめ

保健室は学校教育の場にとして、成長・発達の過程にある子どもたちの養護活動を実践するところであり、現状の心身の問題解決を進めると同時に健康教育、健康づくりの場として位置づけられる。具体的には、養護教諭との相談を中心にふれあう場であり、心身の成長発達を通じて、健康管理の必要性と健康づくりのための教育の場となっていることから、子どもの相談内容への適切な対応と、豊富な専門的知識が求められる。

【参考文献】

- 小倉学：改訂版、養護教諭－その専門性と機能－，東山書房，P150，1985
 大谷尚子・門田三千代・橋本久美子他：養護学概論，東山書房，P41，1999
 三木とみ子：改訂 養護概説，ぎょうせい，2004
 健康相談活動カリキュラム開発研究会：報告書 健康相談活動の理論及び不法，文部科学省，2003

表2. 保健室利用頻度

利用回数	人数
1 なし	197
2 2～3回程度	198
3 10回程度	69
4 それ以上	58
5 わからない	4

表3. 保健室のイメージ

1	病気やケガをした時に行く所	93.20%
2	身長・体重・視力等を測る所	69.40%
3	物をもらえる所	46.60%
4	友達の付き添いやお見舞いに行く所	37.60%
5	休憩する所	27.70%
6	悩みを相談する所	26.30%

表4. 養護教諭に求めるもの(保健室への要望)

1	話しやすい	83.30%
2	やさしい	75.10%
3	手当てが上手	65.80%
4	相談をしやすい	61.60%
5	話を聴いてくれる	54.40%
6	知識が豊富	49.40%

表5. 養護教諭への相談内容

1	ケガ	13.2%
2	友人関係	9.6%
3	病気	9.6%
4	家族	5.3%
5	生理について	3.5%